

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年2月27日】第157号



## 実物に触れる

1年生の国語では、「たぬきのいとぐるま」という物語が登場します。おばあさんとたぬきの、糸車を介した交流の物語です。しかし、教科書の挿絵からでは、糸車の実際の形態を理解するのは難しいのです。そこで、今年も昨年に引き続き、東京農業大学「食と農」の博物館の古農機具コレクションの中から、本物の糸車をお借りして授業に活用しました。

糸車が職員室に届いた日、子どもたちは目ざとく糸車を発見し、「あれは糸車ですか?」「とんからり、とんからり、の?」と興味津々。授業では教室に持ち込まれた糸車にそっと触れる子どもたちでした。

想像力を働かせることは、とても大切です。同時に、実物に接することも大切だと考えています。東京農業大学が教育や研究での対象とする食や農、環境は、子どもたちの学びと直結する場面が多いのです。東京農業大学の有する教育資源を、これからも農大稲花小の教育に活用していきたいと考えています。

## 海外からのお客様

2月20日(月)、フィリピン大学ロスバニオス校から2名の、また、インドネシアボゴール農業大学から1名のお客様が東京農大国際バイオビジネス学科下口ニナ準教授とともに来校されました。学校法人東京農業大学理事長大澤貫寿先生が受勲されたお祝いに来日された方々ですが、校長が長く研究交流をしてきた研究者の皆さんでもあります。農大稲花小の新しい校舎をご覧いただくとともに、本校の教育の特色についてご説明する機会としました。どのような家庭が私立の小学校の教育に興味を持つのか、公立小学校との教育の違い、学費、給食、中等部への進学と、様々なご質問がありました。同時に、元気に英語の勉強をする子どもたちの未来には、大きな期待を持っていただいたようでした。

## 実学の杜へ

2月20日(月)、4年生の子どもたちは、東京農業大学世田谷キャンパスの「実学の杜」と研究棟であるサイエンスポートに展示されている古農機具を見学に出かけました。3月6日(月)の法人の記念日を前に、農大稲花小のルーツを知る学習の一環として稲花タイムで行ったものです。

「実学の杜」では榎本武揚公や横井時敬先生に関わる様々な展示品を見ました。子どもたちは飽きることなく、隕石(隕鉄)で作った流星刀、以前の稲花タイムで学習した塩水選を扱った古書、昔の校舎の写真などに見入っていました。

サイエンスポートは、世田谷キャンパスのほとんどすべての研究室を擁する7階建ての新しいビルで、子どもたちもその中に入るのは初めてです。その入り口にある多摩演習林からの木材で作られた大階段で記念撮影をした後、1階に展示されている古農機具を見学しました。いろいろな工

夫のある農機具の使い方を想像しながら、子どもたちは一つ一つ丁寧に見ていきました。学年が進んだら、今度は子どもたちに様々な研究室を見学させていただき、科学や研究の楽しさを知ってもらいたいと願っています。

### 文旦の香りが教室に

2月22日(木)、1年生は食育ミニ講義「文旦」の授業を受けました。高知県土佐市在住で文旦農家を営む東京農業大学卒業生(校友)の水谷任佑氏の畑と1年生の教室をオンライン(Zoom)で結んでの授業です。文旦の果樹園に立つ水谷氏から、1本の文旦の木に150個ほどが結実すること、収穫後2か月ほど寝かせて甘くしてから出荷することなどを習いました。そして昨年12月23日の大雪では樹齢40年ほどの木が折れてしまった話を聞くと、子どもたちからは「えーっ」と驚きや心配の声が上がりました。

水谷氏の土佐水谷農園からは1年生全員に文旦と、文旦の皮むき器をプレゼントしていただきました。教室で一つだけ皮を剥いてみせた文旦からは、よい香りが教室いっぱい放たれました。



土佐水谷農園 <https://www.tabechoku.com/producers/23287>

### オーストラリアからもお客様

2月22日(木)、本校に、オーストラリアクィーンズランド州教育庁 EQI ミシェル カウウェル部長が来校されました。EQIは、この3月に4年生の希望者が、短期留学する際の引き受け機関です。ミシェル氏には、短期留学について詳細な打ち合わせを行った後、4年生の英語の授業をご覧いただきました。なお当日は、東京農業大学第一高等学校校長、第二高等学校校長、そして第三高等学校校長の皆様も来校され、一緒に、授業を観察していただきました。

参観者がたくさんいらしたせいでしょうか、4年生の子どもたちはいつもよりも引き締まった表情で英語の授業を受けていました。授業観察をした皆様からは習得している単語数も多く、聞き取る力もあることを評価していただきましたが、校長からは、レベルが上がるにつれて、授業に取り組む態度や復習の努力の有無などで、英語力に差がつくことなどを率直にご説明しました。

## 学力テストの返却

3年生と4年生には、学力テストを返却しました。学力テストの偏差値などを見ますと、農大稲花小の子どもたちは、全体として高い学力を有しています。しかし、学力テストの目的は、点数を他の学校と比べたり、友だちと比べたりすることではありません。自分の弱い分野に気づき、それを補う勉強をしたり、自分の得意な分野をさらに伸ばしたりすることにあるのです。比べるのは前回の学力テスト時の自分、そして次回の学力テスト時の自分です。返却された学力テストをすぐにしまうようなことはせず、家庭学習の大切な材料とするようにしてください。

## 大きくして見よう2

2月24日(金)、1年生の稲花タイムでは、実体顕微鏡を使って種などの観察をしました。子どもたちは顕微鏡が大好きです。1学期に続いて2回目の顕微鏡観察ですので、使い方も慣れたものでした。今回は、種の観察をするだけでなく、種について考える機会ともしました。トマト、キュウリなどいろいろな野菜を食べるときに、種も一緒に食べていること、スイカやピーマンなどでは食べたり料理するときに種を除いていること、バナナには種がないこと、イチゴ、カンキツ、アボカド…何でも残った種を播いてみると結構発芽することなどを話しました。一方、イネ、ムギ、マメ類など種そのものを食べていることへの気づきもありました。そうすると、エダマメやグリーンピースは播いても芽がでないのは何故か、などと考える子どもたちでした。

東京農業大学稲花小学校  
校長 夏秋 啓子